

ほつ。とエピソード vol.9

～ある職場の、本当の話～

前回ご紹介したチーム息吹(いぶき)の代表、下村一裕さんのエピソード後編です。今回はチーム息吹に降りがかった困難のお話です。

～後編～

2012年3月の沖縄公演では約一千万円の費用がかかることがわかりました。周りの人たちは、その金額に実現は難しいだろうと思っていました。しかし、日頃から子どもたちには「お金で諦めるな。思いがあれば絶対に実現する。そのためには自分が出来た事を考えて行動しよう」と伝えてきた下村さんは、決してお金で諦めるわけにはいきませんでした。費用を集めるため、スポンサーのお願いに沖縄の企業を直接訪問。下村さんの熱い思いに心打たれたスポンサー

企業は他の企業の紹介までしてくれ、結果、全部で67の企業がスポンサーになってくれました。さらに、その繋がりで80万円近くかかる会場諸経費をはじめ、舞台装置の航空運送費用、メンバーの移動についても支援してもらい、結果、見事沖縄公演を実現させることができました。

出来ないことをただ出来ないというのではなく、どうすれば出来るのかを考えて、それを実現していく。その姿

勢を大人が実行しているからこそ、子どもたちから心からの信頼を得ることができているのだと思います。

また、そんな大人たちの姿を見て、子どもたちに自己決定の力と、それに伴う責任感も芽生えています。子どもたちの中には、「本当は他の都市部の学校に進学を考えていたけど、他の街の学校に行ったら息吹がでなくなるから」という理由で、地元の高校を選ぶ子どもたちが出てきました。15歳の子供にとつて、高校を変えたいというのは、人生を変える決断。下村さんはこの言葉から、息吹という活動を通して子どもたちの成長に貢献し、この活動を継続しなくては、やる気スイッチを入れられたといえます。

舞台は成長と感謝の気持ちを表現する場所だと下村さんは考えています。チャレンジし成長する気が見られなければ、何度も同じ舞台をする意味もありませんし、支えてくれる皆さんへの感謝の気持ちを忘れてしまふようであれば、この舞台は成り立たないので、その時は舞台をキャンセルしようとして子どもたちと約束します。子どもたちは、信じて見守ってくれる保護者やチケットを買って会場に足を運んでくれるお客様を期待を超えて見せようという思いと向上心から、

自分たちで台詞や言い回しを工夫して必ず成長を見せます。その姿勢は本番でも現れ、突然のアドリブもあるそうです。大人たちは舞台のバックで舞台音楽の演奏をしているのですが、アドリブのセリフが入ると曲の長さを変えなければならぬことも。一秒たりとも気は抜けません。舞台上で繰り広げられている子どもたちとの真剣勝負から、子どもが、しっかりと一人前のパートナーとして成り立っていることが分かります。

地域を愛することは、人間としての根ができることにも繋がる。下村さんは考えています。息吹では、自分たちの地域の歴史や文化を、自分たちで演じることで地域のことを好きになったり、考えたりできるようにしていきます。そうして出来た根のある人間が、社会に出ると、例えばネジ一本を作るにしてもただ作るのではなく、思いを持って真剣に働くことが出来るようになる。それが、日本を元気に、そして自分たちの会社も元気にしていこうとつながっていくのです。実際に見た人たちの感想には、舞台が良かったという感想はもちろんのこと「今の自分は、この子どもたちのように、毎日真剣にやっているのか?」など、自分に問い直すきっかけとなつたとの声も多く聞かれるそうです。

どこにでもいるような普通の子ども達が舞台という今まで経験したことがない分野にチャレンジし、一生懸命活動してきた結果を見て欲しいと言う下村さん。子どもたち自らがやる気を出し活動する環境を作ってあげればどんどん成長します。人がこんなにも成長する姿。福島で芽吹く未来への息吹を見て、次世代が未来を開いていく鼓動を感じて、仕事への姿勢を見直すきっかけとしてみてはいかがでしょうか?



採用と教育
(社員教育・経営支援事業)
代表 半田 真仁

広島県出身。商事会社に在職中、日本キャリア開発協会認定のキャリアカウンセラー試験に合格、精神保健福祉士の資格も得た。2年間、福島県の若者自立相談員、就職サポートセンター特別職業相談員を務め、その後「採用と教育」を設立。組織活性化アドバイザーとして、多くの医療・福祉施設の活性化に携わっている。

◆URL <http://www.saiyoutokyouiku.com/>



息吹公演事務局

福島県南会津郡南会津町井桁 228

TEL 0241-78-7077

FAX 0241-78-5010

<http://www.minamiaizu.jp/ibuki.html>